

若者のスニーカー購入における意識と行動

大東文化大学社会学部社会学科

学籍番号 19191047

氏名 小高瑠巳那

指導教員名 小湊浩二

卒業年度 2023 年度

本論文は若者におけるスニーカー購入の意識と行動について研究するものである。先行研究では、「スニーカーがいちばん多く履かれていて所有率は96%以上」というデータが見られ、履物の中でスニーカーが最も支持されていることが分かる。本調査では若者におけるスニーカーの購入をする目的に着目し、仮説「スニーカーブームが原因となって、履き物の中でスニーカーの優先度が高まり、若者のスニーカーへの関心に影響を与えている」を検証することとした。

分析方法は筆者の友人に Google foam を介する方法でアンケート調査を行った。なお、実査所要時間は10分程度を要した。本調査では64の回答が得られた。回答者に普段一番よく使う靴の種類について尋ねたところ、「スニーカー」の73.4%が最も多いという結果であった。結果の分析として、「スニーカー転売の善し悪し」を被説明変数とし、「スニーカーの購入頻度」を説明変数としたカイ二乗検定の結果、カイ二乗値は32.987、P値は0.00013となり、1%水準という高い数値が出た。

結論として、本調査で設定した仮説は明らかに出来なかったと考える。その理由として、調査対象者でスニーカーブームを認識していない人が半数近くいたことから、このスニーカーブームが原因となってスニーカーを購入していると言えない。やはり一般的には、スニーカーよりも衣類や他の趣味にお金をかける人が多く、筆者がスニーカー好きであることから、スニーカーに意識が注目し、流行っているように感じていたと考えられる。しかし、今回の調査から一般的にスニーカーブームが認識されていたとは言えないが、一部の層からはスニーカーブームを認識されていたことが分かった。また、スニーカーブームが原因ではなく、履き心地や歩きやすさから履物の中でスニーカーが最も支持されていることが明らかになった。そして、スニーカーが好きな人やお洒落を楽しみたい人などでは、スニーカーへの関心は確かに高いと言うことが出来ると筆者は考える。